

## 歴史的建物の建築金物について - 2 「床下通気金物」

金田 正夫

せめんと

明治 17(1884) 年 工部省の「摺綿篤製造所」

を浅野セメントに払い下げ

セメント生産が明治 30 年に 100 万樽、大正初期に 500 万樽、大正 12 年に 1000 万樽、昭和 4 年には湿式法による生産が始まり、品質の向上が図られる。

### ■布基礎の登場

大正 8(1919) 年 市街地建築物法が制定され、土台設置が義務化される。

大正 11(1922) 年 平和記念東京博覧会出品小住宅 14 棟の全てが布基礎で、内 3 棟はコンクリート製、他は煉瓦等でつくられた。

昭和 25(1950) 年 建設省住宅局による「都市住宅調査」では布基礎が 45%、石基礎が 55% となる。

### ■換気口カタログ

昭和初期には、コンクリート布基礎が新築住宅に普及していく様子をうかがうことができるが、それに伴う床下換気口の需要の伸びを裏付けるものに、昭和 12 年に発行された建築金物のカタログがある。この中に「風窓金物」と呼ばれた床下換気口の製品が載っている（図 1）。

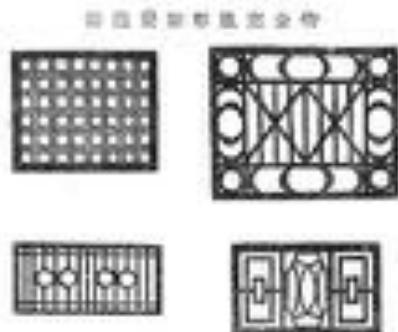


図 1 鋳鉄製風窓金物（床下換気口）

「図解建築材料金物」山本貞吉著、成光館書店

発行昭和 12 年より

### 床下換気口の歴史的背景

■玉石基礎からコンクリートの布基礎へ  
床下の湿気を取り除く上で、床下換気は欠くことができないが、換気の方法は明治維新を境に大きく変わった。それは基礎の構法の変化に大きく影響を受けたもので、玉石の上に柱を直接か、土台を介して載せる構法から、玉石をやめ、柱下部に基礎を連続させる布基礎への変化に伴っている。それまでの柱間の床下通気が、布基礎の立ち上がりによってできなくなり、基礎に小穴をあける手法へ変化することになった。

### ■布基礎に設けられた鋳鉄製換気格子

基礎に開けられた換気口には、害虫等の侵入を防ぐ格子がはめ込まれることになる。布基礎が一般住宅に普及するのは、大正末期から昭和初期とみられ、この頃に建てられた建物は、布基礎に開けられた換気口に様々な鋳鉄製の換気格子がはめ込まれていた。

今回は、大正末期から昭和初期にかけて建てられた建設年代の特定できる建物の床下換気口の鋳鉄格子を紹介する。

床下換気口は布基礎やコンクリートの普及と深い関わりがあるので、二者に関する歴史上の記録を以下に略記する。

### ■コンクリートの普及

明治 8(1875) 年 工部省の「摺綿篤製造所」で日本初のポルトランドセメント焼成

明治 14(1881) 年 山口県小野田に民間初のセメント工場（小野田セメント）設立

## 大正から昭和初期に建てられた建物の床下換気口

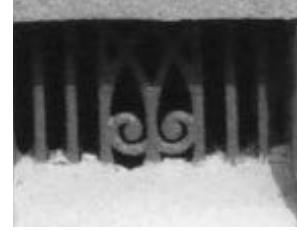
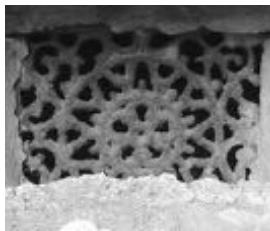
大正 8 年 N 教会 文京区



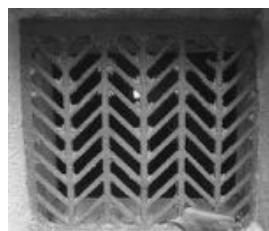
大正 13 年 M 家 杉並区



昭和 2 年 M 家 中野区



昭和 8 年 O 家 中野区

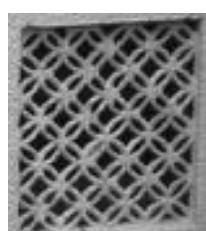


昭和初年 M 家 中野区

昭和 9 年 Y 家 中野区



昭和 8 ~ 9 年 I 家 中野区



昭和 14 年 U 家 茨城県稻敷市

